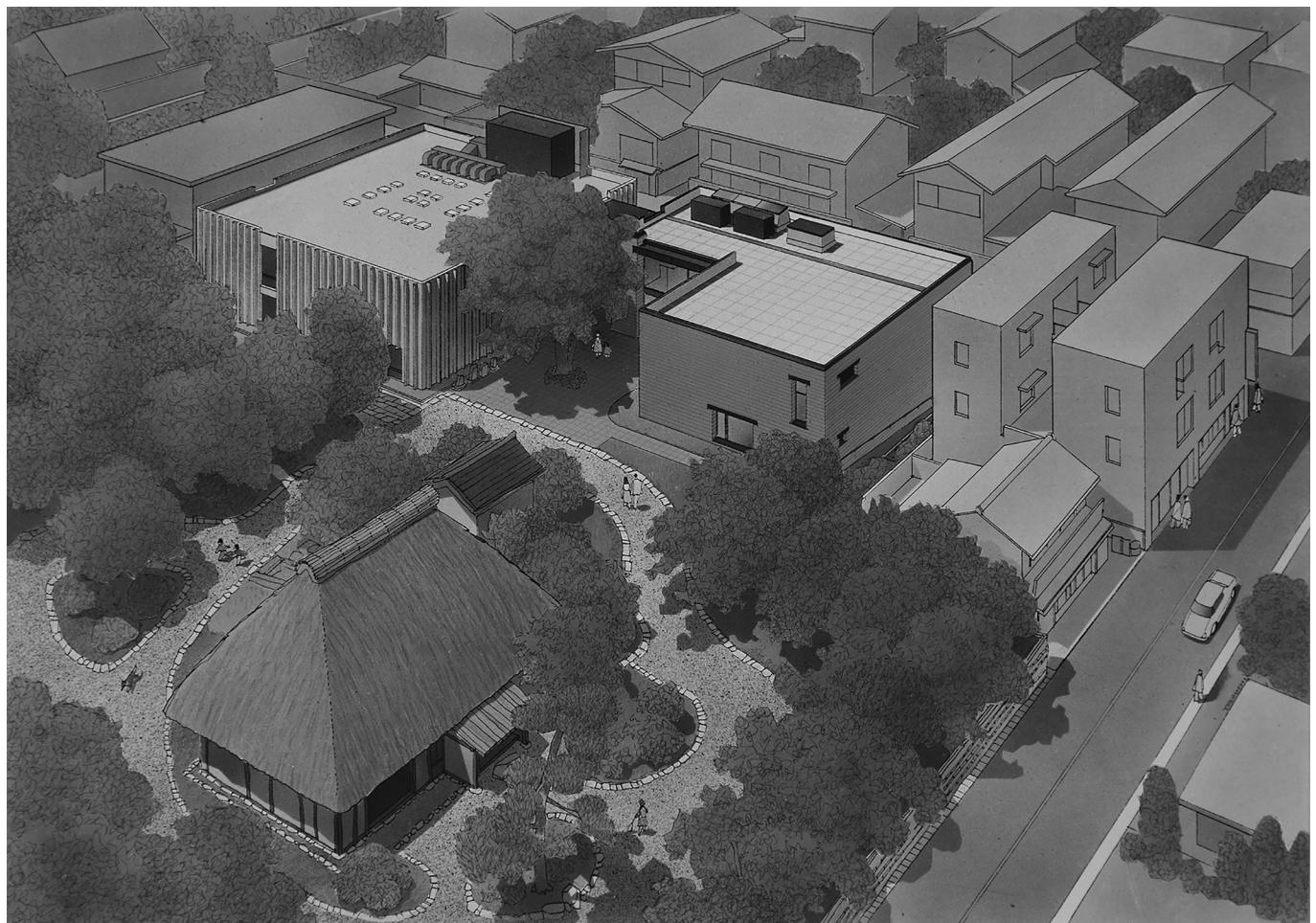
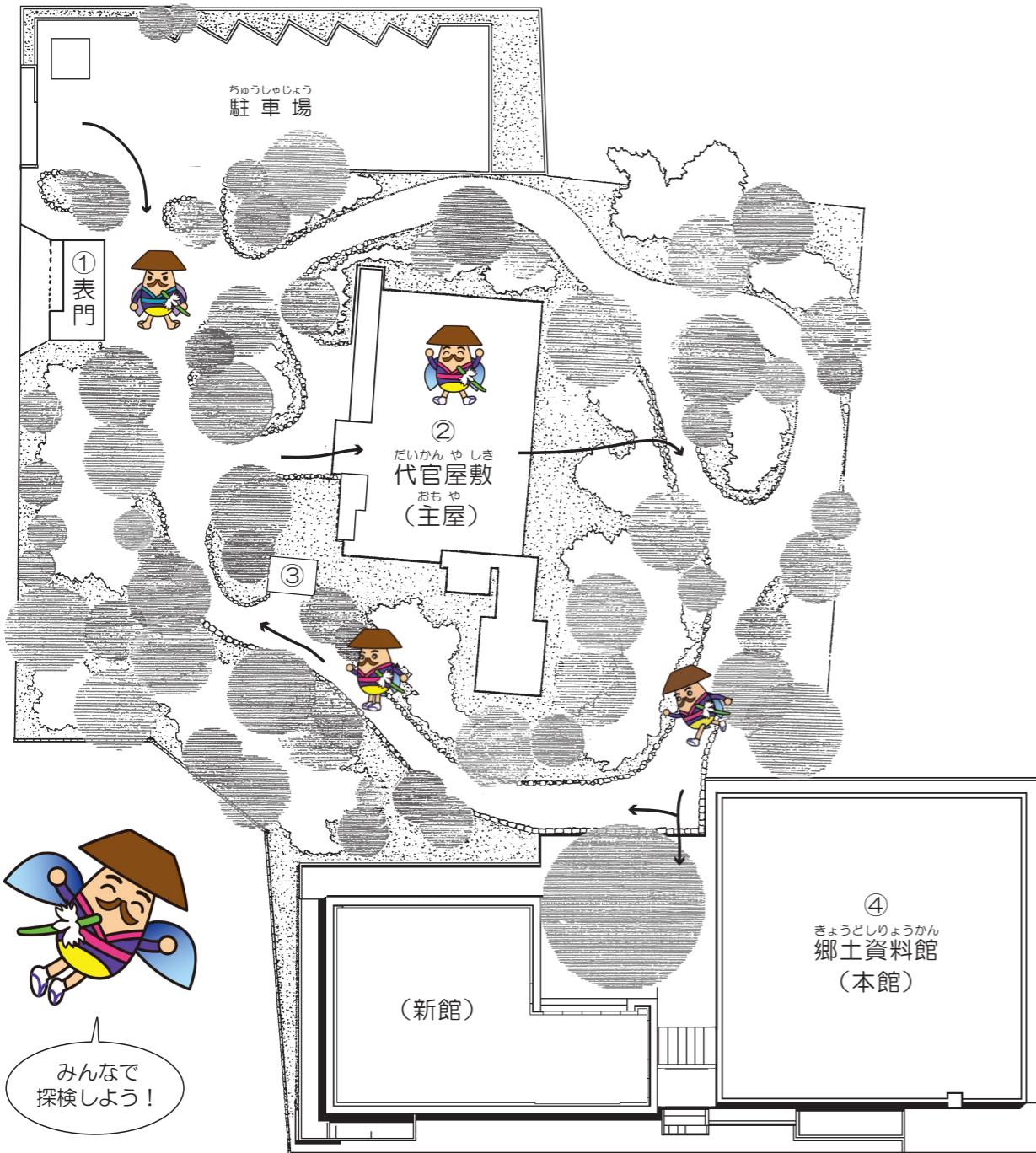


# 世田谷代官屋敷 世田谷区立郷土資料館 学習ノート



年 組 (名前)



※ 見学する時のお願い

- ・代官屋敷は国的重要文化財です。汚したり、傷をつけないようにしましょう。
- ・展示室には大切な資料がたくさんあります。展示物には触らないようにしましょう。
- ・館内では走ったり、大きな声をださないようにしましょう。
- ・大切な資料を守るため、館内では飲食しないようにしましょう。

よろしくお願いします



上町地区キャラクター代官ホタルン

■ 江戸時代（1603～1868年）の世田谷はどんなところ？

江戸時代、世田谷には村が42ありました。そのうちの20ヶ村が彦根藩（現在の滋賀県）井伊家の領地（土地）でした。彦根藩は大きな藩で、江戸時代の終わり（幕末）に井伊直弼が大老（江戸幕府の重要な役職）をつとめたことでも有名です。

現在、約90万人が生活する世田谷区は、江戸時代、畠が広がる農村地帯でした。畠では、夏はナス、秋は大根・里芋・ゴボウなどを作りました。世田谷の農民は作った野菜を江戸で売り、お金にかえていました。

■ 代官屋敷・郷土資料館配置図（左）

① 表門

表門は、正門のことをいいます。この表門は長屋門と呼ばれる門で、脇に人の住める部屋がつくられています。

② 代官屋敷（主屋）

江戸時代、彦根藩世田谷領の代官をつとめた大場家の屋敷です。代官は領地（土地）の管理を任せられた人で、年貢を集めたり、犯罪の取り締まり、災害時の見回りなどをしました。

この主屋は元文2年（1737）頃に建てられたもので、昭和53年（1978）に表門とともに国の重要文化財に指定されました。家族の住まいと仕事場（役所）が一緒になっています。平屋建て（1階建て）で、一部に2階がつくられました。

③ 白州

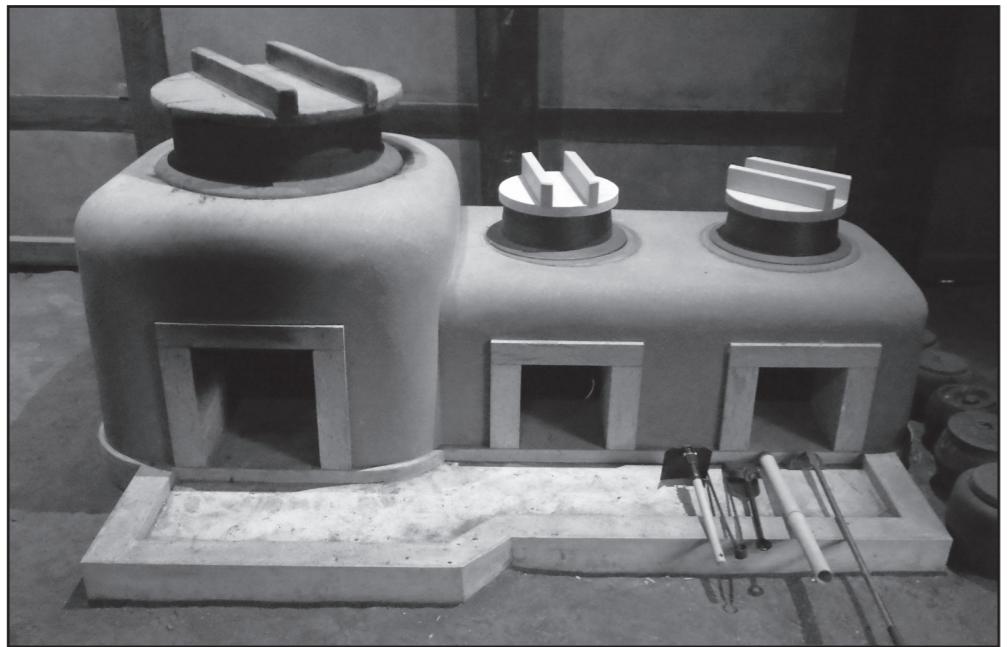
白州は、白い砂や小石を敷いた庭をいいます。この石は江戸時代に実際に使われていたものです。世田谷代官屋敷では、彦根藩の役人と村人が会う時などに白州を利用しました。

④ 郷土資料館

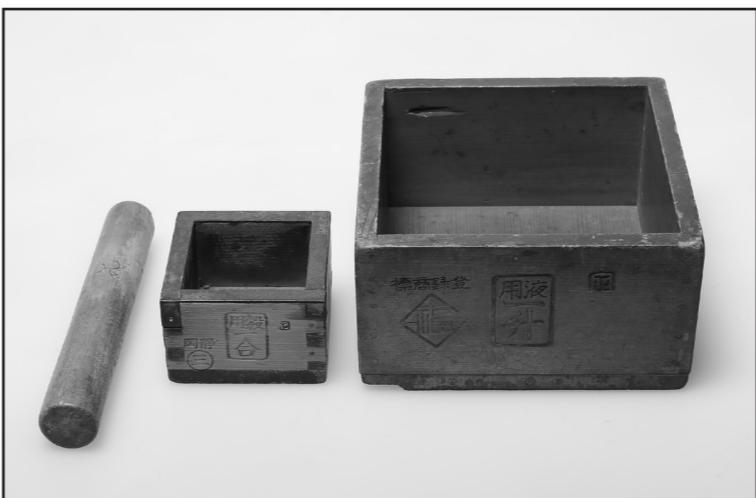
昭和39年（1964）に開館した都内で最初の公立博物館です。2階の展示室では世田谷区の歴史を資料とパネルを使って説明しています。藁でできた大きな蛇や、彦根藩の殿様・井伊直弼の肖像画を探してみよう！



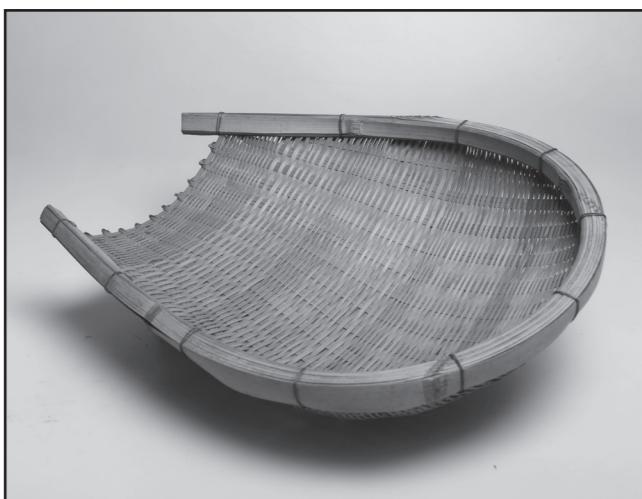
## 2. 昔の道具を見てみよう!



① 瓢（かまど）



② 杵（ます／右・中央）、とかき（左）。



③ 米洗いザル



④ 羽釜（はがま）



⑤ お櫃（おひつ）



⑥ お櫃入れ（おひついれ）



⑦ お櫃台（おひつだい）

道具の使い方を書いてね。写真の下に道具の名前が書いてあるよ。



① _____	答 え
② _____	
③ _____	
④ _____	
⑤ _____	
⑥ _____	
⑦ _____	

### 3・ボロ市いちの歴史を学ぼう！

#### 1. ボロ市が始まったのはいつ？

①始まりは400年以上前！

・天正6年（1578）頃に始まった。

・1ヶ月に6回、1と6のつく日（1・6・11・16・21・26日）に開かれていた。

②江戸時代（300年頃前～）のボロ市は？

・年に1度、12月15日だけ開かれ、「歳の市」といわれた。

※何が売られていた？

→正月用品、日用品、農具などが売られていた。（展示室のジオラマで確認しよう！）

③明治時代（200年頃前～）のボロ市は？

・年に4回、12月15日・16日、1月15日・16日に開かれた。

・店の数は、800～2000店。

・「ボロ市」と呼ばれるようになる。



#### ボロ市の「ボロ」って何？

使い古した衣服、古着、ぼろきれのことを「ボロ」というんだよ。明治20年代になると、古着やボロをたくさん売っていたから「ボロ市」と呼ばれるようになったんだね。

#### 2. 現在のボロ市

・12月と1月の15日・16日、計4日開催。

・約700店が出店し、日用品や正月用品、骨董、食べ物、植木などが売られている。

#### 3. 何を売っているのかな？（昭和20～30年代）



①

②



③



④



#### 4. 江戸時代のボロ市の様子を見てみよう！

展示室にあるジオラマで、江戸時代のボロ市で何が売られていたのか見てみよう。

今ではあまり目にしない  
ものも売られているよ。  
分かったら、ここに書いてね。



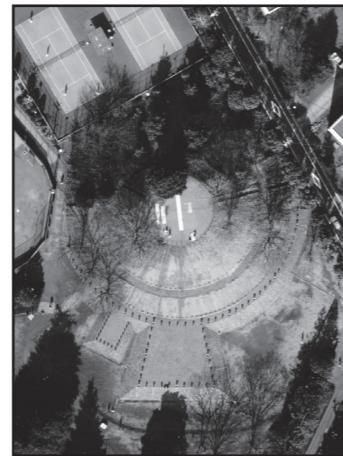
## 4・展示室を見よう！探そう！



①～⑨の展示物を探してみよう！  
見つけたら口の中に○を書いてね。

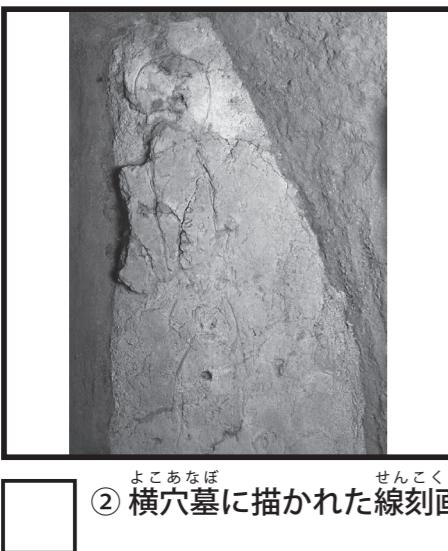


① 鶴の形をした埴輪



はにわ  
野毛大塚古墳

昔の人が土を盛ってつくった大きなお墓のことを古墳といいます。左の埴輪※は現在の玉川野毛町公園内にある野毛大塚古墳(写真右)から出てきたものです。※古墳の上や周りに並べた素焼きの土製品。



② 横穴墓に描かれた線刻画

答え

山や丘の斜面に横へ穴をほつてつくったお墓を横穴墓といいます。

左の絵は横穴墓の壁に描かれたものです。何が描かれているのでしょうか？答えは右の欄に書いてね。



③ 奥沢神社の大蛇



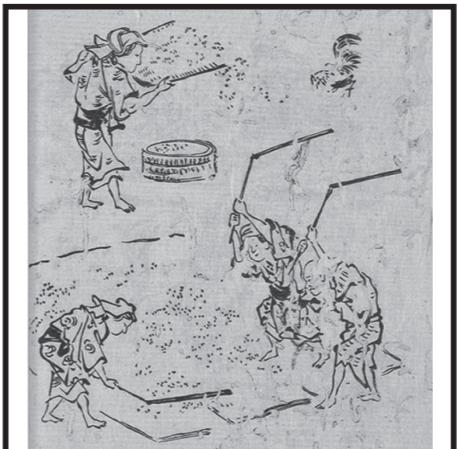
現在のお練りの様子

どこにあるかな？



この絵は江戸時代に描かれたものです。麦の棒打ち※①と選別※②をしているところです。

昔の主食は白米ではなく麦でした。世田谷の村では畑で野菜と麦をつくりました。※①棒でたたいて麦を穂から取り離す。※②箕でふるって実とゴミを分ける



④ 麦の棒打ち、選別



⑤ 大口真神のお札



安藤家（次大夫堀公園民家園）に貼られたお札

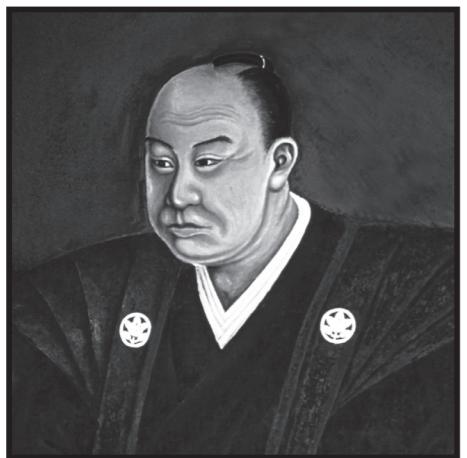
世田谷の  
原始・古代

世田谷で最も古い遺跡※は、今から3万5千年前の後期旧石器時代のものです。現在、世田谷区では300ヶ所以上の遺跡が確認されています。特に多摩川沿いの崖の上にはたくさんの遺跡があります。

※昔の人々の生活の跡が分かる場所

これは盜難除け・魔除けの神とされる御嶽山（東京都）の大口真神のお札で、ニホンオオカミが描かれています。世田谷の農家はお札を家の出入り口や土蔵、畑の脇などに貼って泥棒から守っていました。

- ① 江戸時代の世田谷は、たくさんの人々が暮らす江戸の近くにあったため、地域の人々は畠でつくった野菜を江戸で売り、お金にかえることができました。世田谷には米づくりにむかない土地もあったため、村では米よりも麦・野菜を多くつくりました。
- ② 江戸に野菜を運んだ農民たちは、その帰りに江戸の人々から糞尿をくんで持ち帰り、畠の肥料としました。



⑥



⑦

江戸時代、世田谷には 42 の村があり、その内の 20ヶ村が彦根藩井伊家の領地（土地）でした。江戸時代の終わりに井伊直弼が大老（江戸幕府の重要な役職）をつとめたことでも有名です。では、⑥と⑦、どちらの肖像画（似顔絵）が井伊直弼でしょうか？下に番号を書いてね。

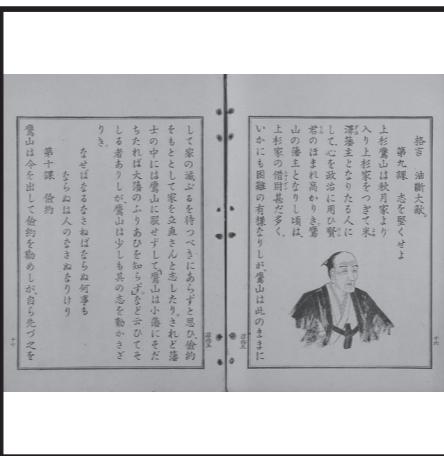
答え



⑧ 寺子屋で使った机



寺子屋は江戸時代に庶民の子どもの教育施設で、読み・書き・そろばんを教えました。この机は寺子屋に通う子どもが使いました。正座など、座って利用します。



⑨ 大正 12 年（1923）の小学校の教科書

尋常小学校は昔の小学校で、明治 19 年（1886）から昭和 16 年（1941）までありました。この教科書は尋常小学校修身の授業で使われたものです。修身は現在の道徳の授業に当たります。



当時の玉電は 1 区 3 錢で乗車できました。その頃ではかなり高額で、そば 1 杯と同じ値段でした。



⑩ 近代の三軒茶屋の模型

答え

玉電（玉川電車）は明治 40 年（1907）、三軒茶屋から二子玉川間で開通しました。これはその当時の三軒茶屋をあらわした模型です。

電車が何かを運んでいますが、何を運んでいるのかな？ヒントは多摩川にあるもので、建物をたてる時に使うものだよ。

- ① 大正 12 年（1923）の関東大震災で被害を受けた人が世田谷へ移り住みました。その後、世田谷に電車が開通し、さらに多くの人々が住むようになりました。
- ② 人が増えたことで畠は住宅にかわり、農家の数は減っていきました。
- ③ 昭和 7 年（1932）、世田谷区が成立しました。現在の区域になったのは昭和 11 年（1936）です。



## 世田谷区立郷土資料館

〒154-0017 世田谷区世田谷 1-29-18 TEL 03-3429-4237 • FAX 03-3429-4925

■ 開館時間 午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

「せたがやホタル祭りとサギ草市」（7月）および「世田谷のボロ市」（12月  
15日・16日、1月15日・16日）開催日は、事業終了時刻まで開館します。

■ 休館日 月曜日、祝日（月曜日が祝日の場合はその翌日も）、年末年始

■ 入館料 無料

■ 交 通 東急世田谷線・バスとも上町下車徒歩 5 分